

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102041		
法人名	社会福祉法人 致遠会		
事業所名	グループホーム サンハイツ城栄		
所在地	長崎県長崎市城栄町26番17号		
自己評価作成日	平成22年 9月 7日	評価結果市町村受理日	平成 22 年 11月 8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 22 年 10月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街にありながら、商店街が近く日々の社会生活を送る環境としては恵まれている。自治会への加入や商店街への毎日の買い物などを通じ、地域住民からの理解も深い。建物も古くバリアがあり過ぎる程あるが、今年、開所10周年目を迎え、入居者9名中4名が共に10年目を祝う事が出来た。他入居者も、9年目の方1名、7年目の方1名と長期入居者が多いのか、当ホームの特徴と言える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎え、開設当初からの利用者4名が参加し、共に祝賀会を開催されている。ホーム利用者の半数が10年の歴史をここで刻まれている背景には、「自立支援」が大きく功を制している。今後は、10年目の節目を契機に、次の節目に向けた新たな一歩に向けて、業務の振り返りと職員の安定・育成を目指した取り組みが期待される。また、利用者の自信回復や達成感につながるように、ホーム内に笑顔が溢れ、玄関に掛けられた暖簾「おかえりなさい」「おつかれさん」が似合う、地域と共に歩むホームに成長されることに期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を基本に、自治会参加や地域商店街の利用など行っている。	法人理念・方針に基づき、その具現化に務められており、家族と協働の支援を目指した取り組みに努められている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加、地域商店街での買い物などを通じ、日常的に近隣住民や地域住民との交流がある。	ホームとして地域に対する積極的な働きかけはされていないが、利用者と一緒に回覧板を回したり、御裾分けのやりとりなど家庭的な日常の交流はされている。訪問した日も隣人が回覧板を持ってきて、御裾分けのお礼を述べられていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り、全入居者へ運営推進会議への参加を呼びかけ、交流の場を持つようにはしているが、その他は何もしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告に終始している感がある。参加住民からは、市職員への質問など活発であるが、返答・確答できない事が多い為、話し合いにはなりにくい。また、上記に伴い、入居者に関する報告を行う際、躊躇してしまう。	近年、運営推進会議の2ヶ月に1度の開催が定着してきたところで、参加メンバーで特徴的なのは職員・利用者の全員参加である。前回の目標達成計画として「地域との情報交換の場としての活用工夫」を掲げられ、会議進行を前半にホームの報告内容とし、後半はテーマを絞った意見交換の場とされている。	目標達成計画の経過及び運営推進会議の実施状況を踏まえて、運営推進会議の進行や内容等について検討・見直しを期待されると共に、出された意見や要望、質問に対するフィードバックの取り組み姿勢も望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外での関わりはない。	行政へのホーム窓口は直接的にはなく、法人グループの担当部所が窓口となっている。運営推進会議で参加メンバーから聴取された折角の貴重な質問・意見等も不消化に終わっている。	地域密着型の利点を活かした、地域の共助と行政の公助を融合させた協力関係の構築に向けた取り組みのベース作りとしての法人グループとホームの体制・連携に期待したい。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は特に、玄関を始め一切の施錠は行っていない。独自のケアマニュアルに記載し、拘束のないよう取り組んでいるが、気が付かない所で、言葉による拘束を行っているのではないかと感じている。	利用者との関わりの中で、「指示、命令」ととれる場面や大声での抑制が見受けられた。職員の利用者に対する期待と願望は理解できるが、職員の気配り不足と自立支援が交差しているのではないかと。又、身体拘束等に関する実施記録もなく、日常業務の振り返りや意識付けの取り組み姿勢の把握に至らなかった。	身体拘束についての「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の正しい理解と接遇マナーや虐待について、サービスの実践に活かせる研修等の取り組みに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修資料や書籍など、手に取れる所に置き、自己学習を促している。今後は、外部研修を含め、職員への意識を促す努力をしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料や書籍など、手に取れる所に置き、自己学習を促している。 現在は制度を利用する入居者はいないが、今後は、外部研修を含め、職員への意識を促す努力をしたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より説明を行っているが、十分な理解・納得が得られているか、確認が難しい。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会への参加や家族懇談会などの機会を設けている。また、報告書を作成し、代表者へは報告している。	年に2回開催されている家族懇談会は、運営方針やホーム目標、サービス提供内容の説明を中心に家族間の交流が目的である。これまでに、職員異動についての意見・要望が出されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場に在り、常に聞く機会があるが、代表者は管理者を通し、報告を受けている。	定期的に、事業計画や期間目標等についての評価と進捗状態に関する会議が開催されており、事業所単位で話し合った結果を報告し、職員意見の反映につながっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修を取り扱うセクションを設けており、その機関を通じ、案内など勤めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会へ加入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の自宅訪問が出来なかった方や、緊急に迫られておられる方など、導入前の段階に時間がかけられなかったケースがある。 入居後に、フォローできるよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見誤りがあったケースがあり、今後に活かしたいと思う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の内容によっては、入居者から教えられる事が多い。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、外出、外泊の制限は設けおらず、家族や友人、知人が自由に来所出来るようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた近所の商店街やデパートなどに行く事によって、馴染みの人から声をかけられる事が多い。	開設10年を迎えた時点で、入居5～10年の利用者が7名もあり、ホーム内での馴染みの関係が成立しており、相性や性格などが共同生活に反映されている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事などの共同作業を支援しているが、入居者の組み合わせによっては難しい事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで当てはまるケースはないが、支援することが出来るよう、体制は整えておきたいと思う。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に一度のプラン見直しと、6ヶ月に一度のアセスメントを通し、本人の意向を探る努力をしている。	アセスメントの中身も、利用者のできていることやこだわりなど強みの部分にもスポットを当てた把握に努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めてはいるが、過去を知り得る情報源が不足しているように感じている。生活歴等、本人との会話や家族の面会時に話した事など記録するようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者2名を職員1名が担当し、アセスメント等を使い、その入居者の事については特に把握するように努めているが、職員の介護力の問題があり、現状は難しい。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族懇談会を活用し、意見やアイデアを聞く機会としている。今年は、家族のみでの懇談の時間を持ってもらった。	利用者一人ひとりの担当職員が中心となってアセスメントの聴取や介護計画の案を作成し、全職員参加のケア会議が開催されている。一方、見せていただいたケース記録からは介護計画の実施内容は確認されず、モニタリングにつながる記載もなされていない。	介護計画が利用者本人の現状に即したものであると共に、介護計画内容を意識した日々のケース記録やモニタリングが、次の介護計画に反映されることが期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録へ記入しているが、日記のようになっている。介護計画へ活かせる記録が取れるように努力が必要と感じている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限界はあるが、可能な限りニーズに応えられるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店街の利用のみに留まっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り在宅生活でのかかりつけ医を継続し、受診できるよう支援しているが、医師によっては、グループホームでの生活を理解してもらえない場合がある。	適切な医療受診支援に繋げる為、家族に理解・協力を得るための話しかけはされている。又、かかりつけ医に対してもホーム生活の理解と職員との信頼関係構築に努められている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も共に日常の介護を行っており、常に情報を共有できるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの受け入れ状態を伝え、出来る限り受け入れるように努力している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末ケア指針を作成している。家族懇談会等で問いかけているが、具体的な内容までは話し合っていない。	関係する医療関係者等とターミナルケアの基本条件を提示して本人・家族の希望を把握されている。又、ホームでの看取りを希望される方に関しては、その都度の話し合いを通じた対応をされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	書籍を購入したり、一部の職員は研修へ参加したりしているが、不十分。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にて、理解と協力を働きかけている。年3回、防災避難訓練を、入居者と共に行っている。	訓練計画書と業務日誌の実施日に「防災訓練実施」という記録はあるが、訓練時の反省や問題点などの記録はなされていない。又、これまで物置きとして使用されていた併設の展望浴場の取り壊しに伴い、2階の廊下や浴室の脱衣所などへ保管品が持ち込まれており、場合によっては障害となる傾向がある。	火災や自然災害対策も踏まえた環境整備や避難経路の確保に期待したい。又、被災後の利用者への継続したサービス提供も含めたライフラインの確保につながる取り決めや地域の協力体制作りが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮しているつもりになっており、言葉使いから対応まで見直しの必要性を感じている。職員一人ひとりの意識が変わるよう、働きかけを継続する。	離席や自分が食べた食器の下膳から食器棚収納、排泄等、可能な限り利用者の残存能力を活かした声かけ見守り中心のスロー介護の取り組みをされている。手助けしない分が言動に出る時もあるので、改善と意識付けの取り組みを実践し様子観察を通じた検討をされている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導になりがち。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主導になりがち。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみから手を掛ける努力をしていたが、継続できていない。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一通り準備から片付けまで、入居者が関わってはいるが、職員が入居者の力配分を上手く出来ず、「楽しみなもの」にまでは支援できていないと感じている。	配膳や盛り付け、下準備などに利用者の活躍場面を提供されており、割烹着姿で職員と協働されている。訪問した日は、利用者が剥かれた栗を使った「栗御飯」で、食卓の話材になっていた。又、食後の口腔ケアもしっかりされており、おいしく食べられる歯の健康づくり支援に努められている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補助食品の活用やレトルトの介護食の活用、また、嗜好品(菓子など)の活用を行い努力している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。自歯がある方は、職員で確認磨きを行っており、定期的な歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、トイレでのスムーズな排泄を促しているが、職員の誘導によってはスムーズに行かなかったり、プライバシーを損ねる結果になっている。	利用者の能力に応じた声かけや見守りをされており、トイレでの排泄支援に努められている。又、外出時などの排泄環境を考慮した支援がなされており、外出前の排泄の促しや外出時のリハビリパンツの着用などで、本人の不安解消にも配慮した支援である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯へ寒天パウダーを混ぜるなどの工夫を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り毎日入浴できるように準備しているが、時間帯については勤務の都合上、難しいものがある。	可能な限り、本人の希望やタイミングを考慮した支援を心がけられ、心身のリラックスや清潔保持に努められている。又、浴槽内の滑り止めマットやシャワーチェアは入浴者の安心の一助である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに職員が対応しきれておらず、生活がパターン化していると感じている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解するよう努めているが、服薬内容が変わる事が多い方は戸惑う事がある。飲み込むまでが、服薬管理である事を意識し、入居者全員の薬に関し、服薬一覧表を作成し、理解するよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出だけでなく、裁縫や編み物、園芸など、一人ひとりに合ったものを見極めながら、提供できるように努力している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事や話題になっている場所など、外出の企画をたて実行している。日常では近隣の商店街や思い出深い商店街への外出をしている。	利用者の能力に応じた外出の支援をされている。訪問した日は、「長崎くんち」の初日ということで、利用者5人と職員が路面電車利用と車利用の2班に分かれて御旅所界限まで出かけられていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了承の元、自己管理している方が2名おられる。また、外出などの際は、出来る限り、本人の財布を持って、好きなものを購入してもらえよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話対応をしていただく事がある。また、家族へ依頼し、訪問前に電話してもらったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツテーブルを置き、その周りで洗濯物をたたんだり、新聞を読んだり、縫い物をしてもらっている。もっと季節感が出るような工夫をしていきたいと思っている。	1階の居間の掃き出し窓からは、眼下の景色や馴染みの建物の看板を目にすることができ、調度品も家庭的なものが配置され、生活感あふれる環境である。2階の居室利用者の引き籠りを防止するため、2階のトイレの使用は日中は制限している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階の窓側に椅子を置き、入居者同士座って話したりしている。また、2階廊下の空間にも、ソファやミニテーブルを置き、居場所とされるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初より、ご本人の使い慣れた物や好みの物、使いやすい物を持参してもらい、配置している。	居室の絨毯の捲れや物の配置から、本人が過ごしやすい居室となっていることが伺える。また、訪問した日は、家族の方が来訪されて、衣類の衣替えをされており、家族との共有の場所ともなっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアを最大に活かし、入居者の能力を維持できる環境を工夫している。		